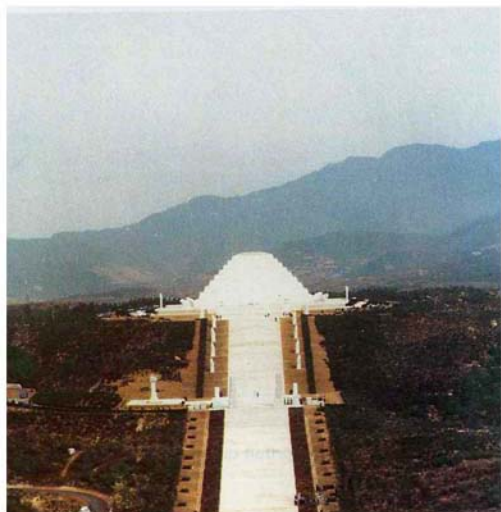




檀君画像



平壤市江東郡大朴山の山腹に改建された檀君陵の敷地総面積は45haに及び、駐車場から陵の頂上までの高さは70m、石段総数279段、石の加工総面積は25,400余㎡である。

東西両側に5個ずつ建てられた立石型式の花崗石門柱は、他の王陵の門とは異なる建築形式で、ここを訪れる人たちはるか5,000年前へ案内するという意味をもっている。最高の門柱は10m、最低の門柱は1.5m

檀君陵改建記念碑の高さは8m、重量は25.5t、記念碑の裏面に献詩が刻まれている。





王子像 長男 夫妻  
3男 夫虞



臣下像 神誌 蚩尤 朱因 余守己



王子像 2男 夫蘇  
4男 夫余



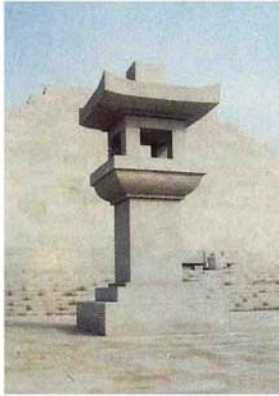
臣下像 彭虞 高矢 海月 緋天生



9 層段々式石墳である檀君陵の高さは 22m、正方形の底辺の 1 辺の長さ 50m、築造に使われた石 1,994 個、そのうち最大のもは重量 21 t。  
9 という数は歴史的にもっとも多いということを象徴してきている。



古朝鮮文化を代表する琵琶形短剣を象徴した剣塔。  
総高 7m  
青銅剣の高さ 5m



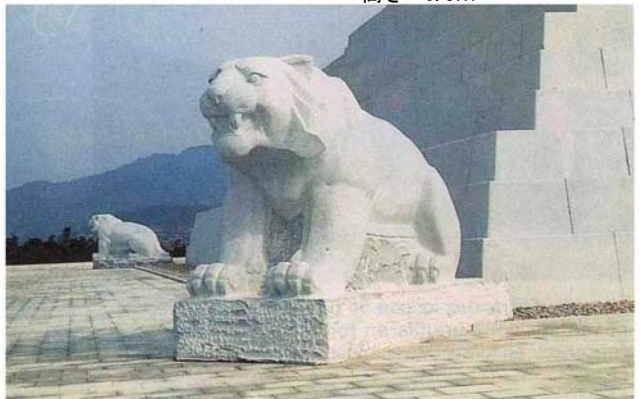
石灯、一晚中灯すというので長明灯ともいう。  
高さ 5.5m



陵の標識碑さながら立つ望柱石。望頭石、望石あるいは華表柱ともいう。  
高さ 6.5m

墳墓の衛兵さながらの石虎

長さ 5.7m  
高さ 3.5m  
重さ 90 t



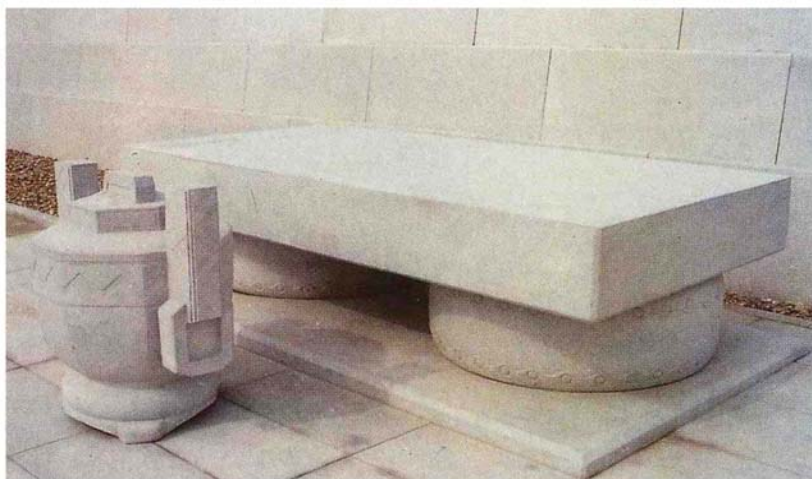


墓室に保存された遺骨のガラス棺

墓室の壁の高さ 3.4m

3角持ち送り天井までの高さ 5.2m

陵の入口には古代式の石門がある。



太鼓形式の台石に置かれた祭壇（長さ 6m、幅 3m）とその手前の壺型の焚香炉（高さ 1.5m）



「ここで注目すべきことは、檀君の実存を解明する遺骨が出土したという衝撃的なニュースよりも、われわれすべての共通分母である檀君を再照明し、民族の始祖を確実に闡明したという事実である。これは朝鮮民族の悠久性を確かなものとし、われわれの歴史を民族の上において、主体的歴史を究明しようというその間の努力の結晶であるといえる。

…これを機に、檀君を求心体としてともに民族統一の近道につくよう望むものである」（南朝鮮の出版物『檀君を求めて』の序文から）